

# 森林やまがた

No.218

2025. 7



山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



## 目次

「やまがた森の感謝祭2025」を開催しました……………	2
森林環境税と森林環境譲与税について……………	3
山形県林業士認定証が交付されました……………	4～5
みどりのページ	
令和7年度緑の環境づくり推進事業	
助成金について……………	6
令和7年度緑の募金公募事業助成金について……………	6
山形県緑の少年団活動審査会で	
平野小学校緑の少年団が最優秀賞……………	6
令和7年度緑の募金街頭キャンペーンを	
行いました……………	6
推進機構分収林の森林の公益的機能の	
増進について……………	8
森の人紹介	
西尾  佑貴さん・小林  真さん……………	9

国有林から	
森林計画に基づいて行っている	
「多様な森林づくり」について……………	10
センタートピックス	
県内に植栽された特用樹林の現況……………	11
フォレスト通信  農林大学校・専門職大学から	
未来のフォレスターたち……………	12
広げよう！原木なめこ栽培～春の普及活動～……………	13
大江町光林会  林業経営「創意工夫」表彰を受賞……………	13
緑の募金街頭キャンペーンを行いました……………	14
最上地域の山火事防止の取組について……………	14
大規模林野火災から1年（南陽市・高島町）……………	15
みんなあつまれ！眺海の森！……………	16
庄内を緑でいっぱい！「緑のプレゼント」開催……………	16
山形県の古木・名木……………	17
丸太価格の推移・製材品価格の推移……………	18

（表紙写真：6月7日開催のやまがた森の感謝祭2025で森づくり宣言（新庄市民スキー場））

# 「やまがた森の感謝祭2025」を開催しました

Instagramでも  
緑環境税に関する  
情報を日々発信  
しています。



## 【はじめに】

県では、県民参加の森づくりの輪を広げ、森に親しみ、森を慈しむ心を育む日として、6月の第一土曜日を「やまがた森の日」と定め、「やまがた森の感謝祭」を開催しています。

今年度は、「身近な木 もっと広がる 未来まで」を開催テーマとし、6月7日に新庄市の新庄市民スキー場を会場に、来賓の方々をはじめ、県内の森林・林業関係者や新庄市内の小学生、緑の少年団のほか、やまがた絆の森参画企業など約400名が深緑の中で植樹を体験しました。

## 【式典】

初めに高橋副知事から主催者挨拶があり、続いて山科新庄市長から歓迎の挨拶がありました。

その後、最上地域森林・林業功勞者表彰が行われ、最上地域の森林整備や「循環型社会づくり」等の山林・林業の振興に貢献された小関一也さん、共同受賞されたがみバイオマス発電株式会社とマルカ林業株

式会社の2社を代表して、がみバイオマス発電株式会社の鈴木専務取締役へ最上地域林業振興協議会長から賞状が授与されました。

続いて、感謝祭テーマ表彰が行われ、開催テーマに選ばれた新庄市立萩野学園6年生の伊藤元康さんへ新庄市長から賞状が授与されました。

その後、山形県CO<sub>2</sub>森林吸収量認証制度により令和6年度に認証された29の企業・団体を代表して、最上管内で活動する新庄信用金庫の井上理事長へ副知事から認証書が授与されました。



最上地域森林・林業功勞者表彰

大切に育て、里山林として役立てて

式典の最後には、新庄市内の小学生6名と副知事による「森づくり宣言」が行われ、ディーオ君が見守る中、子どもたちは「苗木を

いく。」と決意表明をし、これを受けて副知事からは「森の恵みを活かしながら『やまがた森林ノミクス』をより一層進めてまいりましょう。」と力強い宣言がありました。



感謝祭テーマ表彰



CO<sub>2</sub>認証書授与

## 【森づくり活動】

最上総合支庁森林整備課から植樹作業の説明後、植樹会場へ移動し、山形トヨペット株式会社から寄贈されたコナラの苗木150本を子どもたちと大人がスコップで植穴を掘るなど、互いに協力しながら植樹を行いました。東北農林専門職大学の学生と新



副知事の植樹の状況

庄市内の小学生の皆さんには、来賓の植樹の介添えもしていただきました。なお、植樹したコナラについては、絆の森等の活

動による下刈り体験などで、手入れを行うことになっています。

## 【緑の少年団活動】

午後は、山形県森林インストラクター会等の指導のもと、森林散策とネイチャーゲームを行いました。参加者は、班ごとに活動を行いながら、地元の身近な昆虫や植物について、実物とふれあい、学習する貴重な機会となりました。



森林散策



ネイチャーゲーム

## 【おわりに】

やまがた森の感謝祭2025などの植樹活動は、県が目指す二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を2050年までに実質ゼロにする「ゼロカーボンやまがた2050」の実現に貢献するものであり、今後も関係者の皆様と協力しながら県民参加の森づくりを進めてまいります。

〔県みどり自然課〕

令和6年度から徴収が始まりました。森林環境税について解説します。

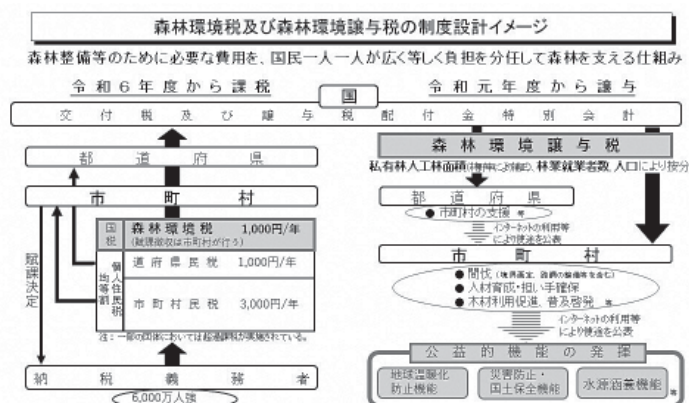
客観的な基準で按分して配分されています。

森林環境税は国内に住所のある個人に対して課税される国税であり市町村において、個人住民税均等割と併せて1人年額1,000円が徴収されます。徴収された森林環境税はその全額が森林環境譲与税として都道府県、市町村に譲与され、市町村においては「森林の整備に関する施策」「森林の整備の促進に関する施策」に、都道府県では「森林整備を実施する市町村の支援等に関する費用」に活用されます。

森林の有する公益的機能の維持・

増進のため適切な森林の整備等を進めていくことが必要ですが、所有者や境界がわからない森林の増加、担い手不足等が課題となっていることから森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から「森林環境税」「森林環境譲与税」が創設されました。

森林環境譲与税の市町村、都道府県への配分については私有林人工林面積、林業就業者数及び人口による



林野庁HP:森林環境税及び森林環境譲与税  
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kankyousei/ankyousei\\_jouyousei.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kankyousei/ankyousei_jouyousei.html)

## 【森林経営管理制度について】

森林環境譲与税は平成30年3月に成立した森林経営管理法に基づく森林経営管理制度の実施に向けた取り組みを中心に活用されています。

森林経営管理制度は、手入れの行き届いていない森林について、市町

村が森林所有者から経営管理の委託（経営管理権の設定）を受け、林業経営に適した森林は地域の林業経営者に再委託するとともに、林業経営に適さない森林は市町村が公的に管理（市町村森林経営管理事業）をする制度です。

【市町村の取組み】

市町村では、この森林経営管理制度を行うための森林の調査、森林所有者への意向調査や航空レーザ測量による森林資源情報の取得のほか、公有林、私有林の森林整備、森林保護対策、林道の維持修繕などに森林環境譲与税を活用しています。

【県の取り組み】

森林経営管理制度以外の取り組みとしては、地域産木材の利用拡大に向けた取組み等の木材利用普及のほか、人材育成や担い手の確保などにも森林環境譲与税が活用されています。

県では市町村への支援として、森林経営管理制度の実施をサポートするため、林業関係団体と行政との連絡調整や、専門スタッフの派遣、森林資源情報の共有を行うほか、人材育成や林業事業体への支援を行うなど森林経営管理制度の円滑な実施に向けた基盤整備を行っています。

皆様からいただく森林環境税は森林環境譲与税として県、市町村で森林整備等に関する施策に活用されています。引き続き、森林経営管理制度の着実な実行に取り組んでまいりますので、今後とも一層の御理解御協力をお願いします。

森林環境譲与税の活用状況については、国、県、市町村のホームページで公開されており、各取組みの概要等について紹介しています。県ホームページ内に市町村へのリンクがありますので、左のQRコードからご覧いただけます。



林野庁ホームページ  
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kankyousei/kankyousei\\_jouyousei.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kankyousei/kankyousei_jouyousei.html)



山形県ホームページ  
<https://www.pref.yamagata.jp/140023/jouyozei.html>

森林環境譲与税関係HPへのリンク

# 山形県林業士認定証が交付されました

## ◆はじめに

令和7年4月21日（月）に、山形県庁講堂で「山形県農業者・林業士認定証交付式」が行われ、新たに林業士と認定された方々に、吉村知事から認定証が交付されました。

## ◆山形県林業士とは？

県では、優れた林業後継者等の育成と地域の林業・木材産業等の発展に資するため、林業経営や木材産業等の振興に意欲的に取り組んでいる実践者を「林業士」として認定しています。林業士は、その役割や活動年数に応じて「指導林業士」と「青年林業士」に区分されています。

## ◆指導林業士の役割

指導林業士は、自らの林業経営や木材産業等の活動等を通して資質向上に努めるとともに、林業・木材産業等の知識や技術の普及のほか、青年林業士・林業後継者等の育成指導に当たるものとして、次の事項を実践いただくことにしています。

- ① 青年林業士や林業後継者等の相談役、森林施業技術等の指導。

- ② 県が実施する研修等の指導者のほか、指導林家や林業普及指導員等と連携した、林業・木材産業等の知識や技術の伝承。

- ③ 地域の小中学校の児童・生徒等を対象とした森林・林業教育への協力。

- ④ 地域の林業グループ等の育成強化のほか、自らのグループ活動等を通じた、林業・木材産業等の魅力発信。

### 【要件】

- ① 林業経営等における模範的な施業技術を有する地域のリーダーとして、指導や後継者育成に努めている林業・木材産業経営者及び従事者

- ② 5年以上青年林業士として活動、または林業・木材産業等の経営に5年以上従事している概ね45歳〜70歳の方

## ◆青年林業士の役割

青年林業士は、自らの林業・木材産業等に関する知識や技術の向上を図るとともに、地域における信頼の確保に努め、次の事項を実践いただくことにしています。

くことにしています。

- ① 県が実施する研修等の指導者のほか、指導林業士や林業普及指導員等と連携した、林業・木材産業等の知識や技術の研鑽。
- ② 技術指導のための活動や社会貢献活動への参加。

- ③ 地域の林業グループ等との連携のほか、自らのグループ活動等を通じた、林業・木材産業等の魅力発信。

- ④ 自ら又は所属事業体における、県立農林大学校生等をはじめとしたインターシップ受け入れへの協力。

- ⑤ 地域の林業・木材産業への新規参入者等の相談役、技術等の指導。

### 【要件】

- ① 地域のリーダーになるようとする意欲と目標を持ち、将来にわたって林業・木材産業に就業し、意欲的に取り組む若手の林業・木材産業経営者及び従事者
- ② 林業・木材産業に5年以上従事している概ね45歳までの方

## ◆新規認定者

- ▽指導林業士 1名
- ▽青年林業士 5名

## ◆指導林業士認定者の紹介

小林 真氏（白鷹町）

平成27年4月に（株）シュナイトを設立され、現在は、取締役役に就任されております。

森林施業及び森林経営プランナーの資格を取得され、長井市内において管理されていない森林約50haを法人で譲り受けて森林整備を推進しています。隣接する森林の所有者と合意形成を図りながら整備を進め、今後のさらなる活躍が期待されます。

## ◆青年林業士認定者の紹介

西尾 佑貴氏（寒河江市）

愛知県や栃木県で原木きのこ生産に取り組まれ、現在は、お日さま農園を経営されています。

各種研修等に積極的に参加して生産技術を取り入れ、山林を借りて原木きのこを生産されており、きのこ生産用の広葉樹原木を自ら伐採して調達することで、里山林の整備にもつながっています。

熊谷 耐志氏（鮭川村）

平成20年に（有）熊谷伊兵治ナメコ生産所に就職し同代表取締役専務に就

任され、令和5年11月には代表取締役社長に就任されました。

高品質な菌床ナメコをコストを抑えながら安定的に生産しており、他の生産者の模範となっています。

### 黒石 直人氏（酒田市）

平成27年に北庄内森林組合に就職され、現在は、業務課係長として勤務されています。

利用間伐の事業、荒廃森林緊急整備事業、分収林間伐の事業等に従事しています。また、森林経営計画の策定や森林病害虫防除事業にも従事し、一連の森林整備の現場管理を担っています。

### 渋谷 みどり氏（鶴岡市）

平成18年に出羽庄内森林組合に就職され、現在は、森林整備課係長として勤務されています。

令和5年まで山形県森林審議会委員を務められ、森林施業プランナーとしても、中核となって集約化施業に積極的に取り組み、森林所有者への利益還元を果たしています。

### 忠鉢 春香氏（鶴岡市）

平成21年に温海町森林組合に就職され、現在は、主任（事業総括）として勤務されています。

令和6年から山形県森林審議会委員を務め、森林施業プランナーとして、皆伐跡地での焼畑によるあつみかぶ栽培全般の業務を担当されています。かぶの販売収入を再造林と保育経費に充てることで、森林所有者の経営意欲の向上と経費負担の軽減に貢献しています。

### ◆林業士数（令和7年4月現在）

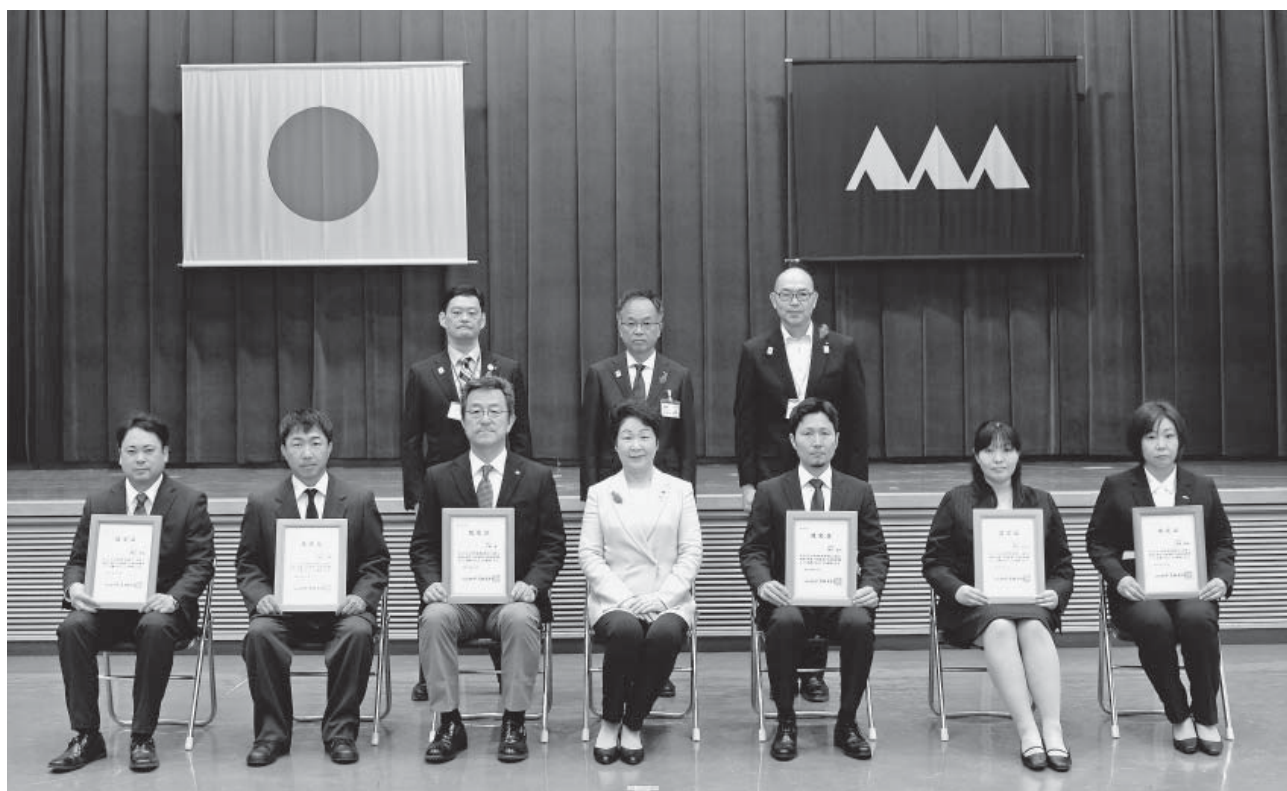
▽指導林業士	計47名
村山	16名、最上 7名
置賜	10名、庄内 14名
▽青年林業士	計45名
村山	12名、最上 14名
置賜	8名、庄内 11名

### ◆おわりに

この度、指導林業士・青年林業士に認定されました6名の皆様、誠におめでとうございます。

今後、地域林業のリーダーとして、ますますのご活躍を期待しています。

〔県森林ノミクス推進課〕



令和7年度 山形県林業士認定証交付式

令和7年4月21日 於 山形県庁

写真前列：左から、熊谷氏、西尾氏、小林氏、吉村知事、黒石氏、渋谷氏、忠鉢氏  
後列：左から、笠井森林ノミクス推進課長、高橋農林水産部長、佐藤技術戦略監



みどりのページ

## 令和7年度 緑の環境づくり推進 事業助成金について

やまがた森林と緑の推進機構では、地域の皆さんのボランティアによる緑化活動を支援する助成事業「緑の環境づくり推進事業」を実施しています。以前よりこうした支援は続けてきましたが、地域におけるボランティア活動では、高齢化や人手不足などが大きな課題になっています。活動の担い手育成や、次世代への継承といった観点から、令和5年度からは、緑地の整備や維持管理とともに環境学習にも取り組む活動への支援を拡充しています。

今年度事業については、2月～3月にかけて募集を行い、審査の結果、以下のとおり44団体の事業が採択されました。団体名等の詳細については、当機構のホームページをご覧ください。

- ①都市・農山村の環境緑化整備事業 8団体（整備＋環境学習5団体、整備のみ3団体）
- ②都市・農山村の環境緑化維持管理事業 32団体（維持管理＋環境学習10団体、維持管理のみ22団体）
- ③森林環境学習推進事業 4団体

## 令和7年度緑の募金公募事業 助成金について

県民の皆様からご協力いただいた「緑の募金」の一部は、一般の県民の皆さんから事業を募る「緑の募金公募事業」として、花壇の整備等による花いっぱい活動や、幼稚園や保育園等での木育活動に活用しています。

今年度の「花いっぱい活動支援事業」については、2月～3月にかけて募集を行い、審査の結果、15団体の事業が採択されました。団体名等の詳細については、当機構のホームページをご覧ください。

なお、「木育活動支援事業」については、8月に採択事業が決定する予定です。

## 山形県緑の少年団活動審査会で 平野小学校緑の少年団が最優秀賞！

山形県緑の少年団連盟が主催する令和6年度山形県緑の少年団活動審査会で、置賜ブロック代表の平野小学校緑の少年団（長井市）が最優秀賞を受賞しました。

平野小学校緑の少年団は、同小学校の3～4年生が所属する学校単位の少年団です。

森林の美しさや自分の周りの環境に興味を持ち、地域の方々と関わりながら地域を愛する心を育てることを目指して、活動に取り組んでいます。学習活動としては、置賜総合支庁と長井市農林課の方を講師に迎え、長井市の自然あふれる場所とその魅力を守るために、除伐など様々な対策を行っていることを学びました。

また、長井市平野地区の水と緑の感謝祭への参加、21世紀不伐の森での植樹・除伐などの活動を行いました。



「21世紀不伐の森」での除伐活動

なお、優秀賞は、遊佐町緑の少年団、大堀小緑の少年団（最上町）、朝日町緑の少年団が受賞しました。最優秀賞を受賞した平野小学校緑の少年団です。

少年団は、10月に宮城県で開催される全国緑の少年団活動発表大会（全国育樹祭併催行事）に推薦されました。

## 令和7年度緑の募金街頭 キャンペーンを行いました

4月～5月の春募金期間中に県内各地で緑の募金街頭キャンペーンを開催し、「緑の募金」を広く県民の皆さんに周知するとともに、募金への協力を呼びかけました。

### 緑の募金街頭キャンペーン出発式

◆期日 令和7年4月16日

◆場所 やまぎん県民ホール

緑の募金強化月間【みどりの月間】の開始に合わせて開催し、緑の募金に功績のあった企業や団体の皆様への感謝状の贈呈や、保育園児による緑のメッセージの読み上げ、ボランティア団体への募金資材の引渡しなどを行いました。

あいにくの天候により、出発式は屋内の会場でを行い、街頭募金も山形駅の自由通路と山形市役所前のみでの実施となりましたが、令和7年度の緑の募金活動がスタートしましたので、皆様方からのご協力よろしくお願いたします。



街頭募金(山形駅自由通路)

◆令和7年度感謝状贈呈団体

(株)朝日測量設計事務所、(有)アルファ設計、五十嵐工業(株)、小林防護工事(株)、城東機械製造(株)、(株)菅野測量設計、(株)スペースパーツ山形、(株)東北工材、(有)東北紙商、ユニ・チャーム(株)(敬称略、五十音順)

◆募金額 14,880円

モンテディオ山形ホームゲームでの募金活動と木工フラフト体験会

◆期日 令和7年5月3日

◆場所 NDソフトスタジアム周辺

モンテディオ山形のホームゲーム開催に合わせ、県立村山産業高等学校校みどり活用科の生徒8名、ガールスカウト山形県連盟の団員4名の協力のもと、NDソフトスタジアム周辺で緑の募金活動を行いました。

募金に協力していただいた方には、

緑の募金とモンテディオ山形がコラボして製作したオリジナルピンバッジを差し上げるなどし、併せて、ハーフタイム時には、緑の募金を呼び掛ける横断幕やのぼりを掲げてスタジアム内を行進しました。



ディーオとどんぐりちゃんが緑の募金をPR

また、ブナ材のストラップや、スギ材のカスタネット作りの木工フラフト体験も行うことで、多くの来場者の方から木の温もりを感じてもらうことができました。

◆募金額 135,254円

この他にも県内各地で地区支部等による募金活動が展開され、多くの皆様から募金にご協力いただきました。いただいた善意は、森林の整備や緑化の推進などに有効に活用させていただきます。

〔(公財)やまがた森林と緑の推進機構〕

緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま (R7.4.1~R7.5.31)

(やまがた森林と緑の推進機構取扱い分)

(株)アオバヤ、(株)朝日測量設計事務所、(株)ウエステック山形、(株)ウエノ、大山建設(株)、(株)カキザキ、(株)克技術設計、金子建設工業(株)、川田建設(株)、(株)かんぽ生命保険山形支店、(株)北山建設、(株)幸輪、(株)後藤組、小林防護工事(株)、コマツ山形(株)、(株)寒河江技術コンサルタント、(株)佐藤工務、(株)三要、(株)三和技術コンサルタント、J A 共済連山形、(株)荘内銀行、白岩土木建築(株)、白鷹ライオンズクラブ、(株)新庄工務所、(株)新庄砕石工業所、(株)新庄・鈴木・柴田組、(有)真和技建、(株)鈴木久測量設計事務所、(株)鈴木測量事務所、全国健康保険協会山形支部、大東建設(株)、(株)ダイバーシティメディア、(株)大洋測量設計社、大和工営(株)、(特養)老人ホーム長生園、(株)テトラス、(株)出羽測量設計、東光計測(株)、東北電力(株)鶴岡営業所、東北電力(株)山形支店、東北電力ネットワーク(株)山形支社、東北ナノテック(株)、東北パイオニア(株)、中山ロータリークラブ、永井建設(株)、南陽ライオンズクラブ、(一社)日本自動車販売協会連合会、日本政策金融公庫山形支店 農林水産事業、沼田建設(株)、パナソニックエンジニアリング労働組合、(特非)葉山の里たしろ、東日本旅客鉄道(株) 山形統括センター、(株)マイスター、(株)マルゴ、村山ロータリークラブ、村山ロータリークラブ、(株)八鍬建設、(株)矢作組、(株)山形銀行県庁支店、(一社)山形県医師会、(公社)山形県観光物産協会、(公社)山形県看護協会、山形県後期高齢者医療広域連合、(公財)山形県国際交流協会、山形県国民健康保険団体連合会、山形県社会福祉協議会、山形県商工会連合会、山形県職業能力開発協会、(公社)山形県私立学校総連合会、山形県信用保証協会、(公財)山形県スポーツ協会、山形県中小企業団体中央会、山形県町村会、(公財)山形県埋蔵文化財センター、(一財)山形県理化学分析センター、(公財)やまがた健康推進機構、公益財団法人やまがた産業支援機構、山形酸素(株)、山形東亜D K K(株)、山形トヨベツ(株)、山形農業協同組合、(株)山形メタル、山田建設(株)、大和建設運輸(株)、(株)ヤマトテック、(株)山本組、米沢信用金庫、米沢中央ライオンズクラブ、(株)若松建設 (敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました

# 推進機構分収林の森林の公益的機能の増進について (CO<sub>2</sub>吸収による地球温暖化対策の推進)

## ◆はじめに

日本は地形が急峻で地質が脆弱であることから、前線や台風などによる豪雨により、毎年、山地災害が多く発生しています。特に近年では異常気象による災害が増加する傾向が見られます。

令和6年7月には、警戒レベル5の集中豪雨により、庄内・最上地域を中心に甚大な被害が生じました。酒田市では、荒瀬川の氾濫や土砂災害の影響による家屋の浸水・農地冠水・土砂流入など、深刻な被害が発生しました。



酒田市青沢地区

## ◆地球温暖化と異常気象

地球温暖化は、CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの排出量増加によって引き起こされると考えられています。これにより、気温が上昇し、大気中の水蒸気量が増加することで、大雨など、異常気象が発生しやすくなります。

地球温暖化を防ぐためには、大気中からCO<sub>2</sub>を削減・除去する必要があります。森林は、光合成により大気中のCO<sub>2</sub>を吸収し、炭素として蓄え成長することでCO<sub>2</sub>吸収源として大きな役割を果たしており、この機能は、森林が持つ公益的機能として重要なものです。



大気中のCO<sub>2</sub>を吸収する森林

## ◆機構分収林の森林の公益的機能

推進機構では、適切な間伐などの森林整備を通して、CO<sub>2</sub>吸収源などの森林の公益的機能の増進に努めます。

令和6年度の間伐面積や生育状況から「山形県CO<sub>2</sub>森林吸収量認証制度

評価基準」を使用してCO<sub>2</sub>吸収量を試算しました。結果は、間伐による年間CO<sub>2</sub>吸収量は約1千4百t-CO<sub>2</sub>(表1)でしたが、その効果を分かりやすくするため、「林野公共事業における事業評価参考単価表について」を使用して算定可能な森林の公益的機能の貨幣価値を試算しました(表2)。その結果効果額は、炭素固定便益の約1億5千万円を含む総額約8億3千万円、費用対効果は約3.5倍となり、森林整備によって、かなりの公益的機能が発揮されます。

今後もCO<sub>2</sub>吸収機能を含めた森林の公益的機能を増進させていくためには、引き続き計画的な森林整備を実施していく必要があります。

表1 R6年度間伐面積とCO<sub>2</sub>吸収量

間伐面積	CO <sub>2</sub> 吸収量
154.39ha	1,441.31t-CO <sub>2</sub>

\*「山形県CO<sub>2</sub>森林吸収量認証制度評価基準」適用

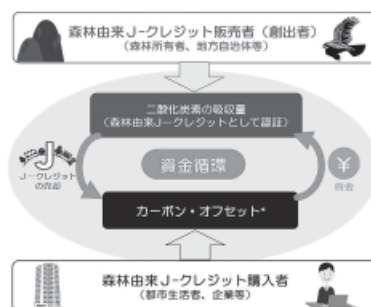
表2 R6年度間伐実施による森林の公益的機能の貨幣価値 単位:千円

項 目			金 額
費用額 C 間伐面積 : 154.39ha			237,748
効果額	環境保全便益	炭素固定便益	150,029
	山地保全便益	土砂崩壊防止便益	2,460
	水源かん養便益	洪水防止便益	258,255
		流域貯水便益	80,952
		水質浄化便益	336,364
	計 B		828,060
費用対効果 B / C			3.48

\*「林野公共事業における事業評価参考単価表について」適用

## ◆J-クレジット制度

J-クレジット制度とは、地球温暖化の抑制や持続可能な社会の実現を目的に、国が運営する制度です。適切な森林整備の実施によって森林が吸収したCO<sub>2</sub>吸収量をクレジットとして発行し、企業などが、自らの温室効果ガス排出量をオフセットするために活用することができます。



推進機構では、この制度を活用し、地球温暖化の防止に貢献する取組みについて、現在検討を進めています。

## ◆おわりに

今後も、適切な森林整備を通じて健全な森林を育成し、木材の安定供給を推進するとともに、森林の公益的機能を高めることで、県民の生活環境の保全に努めてまいります。

引き続き、推進機構の運営と森林整備事業に対し、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(「公財」やまがた森林と緑の推進機構)

## 森の人紹介

山形県青年林業士

西尾 佑貴さん（寒河江市）



令和7年度に青年林業士に認定された西尾佑貴さんを

紹介します。

西尾さんは愛知県出身で、地元の農業大学校を卒業後、農業法人において、つまもの（刺身や吸物などの和食につけあわせる添え物）に使用する南天、もみじなどの採取や、原木きのこ栽培に携わり、ご自身でも山林を借りて原木きのこの栽培を実践するなど特用林産栽培の経験を積んできました。

寒河江市に移り住んでからは、農業経営の傍ら、寒河江市において原木なめこの栽培を大規模に行っている指導林業士の菊地廣行氏の指導のもと、令和5年から寒河江市の山林において原木きのこの栽培を始め、徐々に生産量を増やしています。

また、農業経営においては、新規就農の研修生や農業体験参加者を積極的に受け入れ、新規就農者の育成

にも貢献していますが、こうした研修生にも原木きのこの栽培を体験させるなど、地域の農林業の後継者育成に大きく貢献しています。

青年林業士の認定の際に受講した林業士養成研修においては、本県の実情を学んだ中で、ワラビのカバークロップやバイオマス燃料、廃菌床の利用などに興味を示していました。今後は原木きのこの栽培と炭焼きに取り組みたいと決意を新たにしていました。

農業分野では後継者育成のほか、有機農業や新しい栽培技術への取組みが評価され、同じく農業経営を行っている県の青年農業者である奥様と共に令和6年度の村山地域農林水産業若者賞を受賞しました。林業分野においても今後の活躍が期待されます。

〔村山総合支庁森林整備課〕



原木なめこの植菌作業の状況

## 森の人紹介

森林の集約化と施業を实践

指導林業士

小林 真さん（白鷹町）



白鷹町出身の小林真さんは、少年時代には祖父に連れられて山に

に入り、「雪起こし」を楽しんでいたそうですが、「今思えば、立派な労働力になっていたのかもしれないね」と笑って振り返ります。

学校を卒業後は県外に就職されましたが、約25年前に地元で福祉関係の会社を起業されました。業務の中で住宅のリフォーム依頼を受けるようになり、二級建築士の資格を取得され、これを機に再び木や森との関わりが深まっていきました。

転機となったのは、平成25年と26年に白鷹町を襲った豪雨災害で、土砂とともに大量の流木が沢を埋め、平地にまで流出する等、深刻な被害が発生しました。これを機に、自身の所有林の手入れを決意されました。しかし、現地に至るには他人の土地を通る必要があり、土地所有者が分からない、また分かっていても、その



場所や境界が不明という現実に直面します。こうした背景には、森林所有者の「諦めと無関心」があると感じた小林さん。木を資源として活用し、循環させる「資産」としての価値を見出せれば、所有者の意識も変わるのではないかと考えました。

その実現のためには、森林の境界を明確にし、施業を効率化する「集約化」が不可欠です。小林さんは「森林施業プランナー」の資格を取得し、森林の資産価値を高める取り組みを実践されています。こうした活動が評価され、令和6年度には指導林業士として認定を受けられました。

今後の展望としては、

- ・所有森林の管理手法に関する選択肢の提示と情報提供
- ・皆伐後に針葉樹以外の樹種を植える森林経営の提案
- ・多様な樹種の試験植栽とその管理、苗木の生産

といったテーマに意欲的に取り組まれている計画です。

また、NPO法人ひびきの代表理事として、伐採された木を整理・販売する過程を、障がいのある方の就労支援の場として提供する等、森林資源の活用と社会貢献を見事に両立されています。ひびきの活動内容については、QRコードより御覧ください。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



# 森林計画に基づいて行っている 「多様な森林づくり」について

平素より、庄内森林管理署の業務運営について多大なご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

今回は、国有林で行っている「多様な森林づくり」についてご紹介します。

令和3年に閣議決定された「森林・林業基本計画」は、日本における森林計画制度の最上位計画で約20年先を見通して定められた計画です。

この計画の下には「全国森林計画」があり、国有林関係では「国有林の管理経営に関する基本計画」「国有林の地域別の森林計画」「地域管理経営計画」「国有林野施業実施計画」の各計画があります。いずれも「森林・林業基本計画」に基づくものとなっています。

現行の「森林・林業基本計画」では、国有林野事業が行うべき基本事項として、水源の涵養や山地災害防止、生物多様性保全など重視すべき機能に応じた施業を行うことが定められており、多様な森林を積極的に育成することが重点項目として掲げられています。これらを実行するに

は、指向する森林の状態（育成複層林）への誘導をいかに行うかが課題となっており、生物多様性保全を考慮して溪流沿いに溪畔林を設ける等の配慮を行うほか、間伐の適切な実施や主伐後の確実な更新など、針広混交林やモザイク状に配置された森林への誘導も必要とされています。

東北森林管理局においては「多様な森林づくり」として、①自然条件・社会条件に基づくゾーニングを行いながら、育成単層林のうち、急傾斜、林地生産力の低い森林を育成複層林へ誘導、②通常伐期や長伐期など多様な伐期による伐採、③皆伐面積の縮小・分散化、④溪畔林の適切な保全と保護樹帯の設置、⑤希少猛禽類の営巣期間に配慮した施業や狩り場の創出、⑥事業箇所や公益林周辺などの人工林伐採の際の広葉樹利用、⑦病虫害被害地域における積極的な対策等を考慮しながら事業を行うこととしています。

具体的取組としては、路網に近接する森林等を経済林、高標高地や路網から離れた森林等を公益林と位置

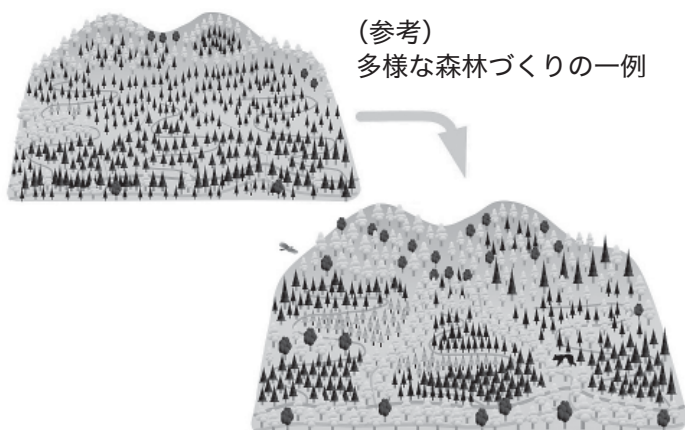
付け、経済林は循環利用を行いつつも極力皆伐箇所を少なくして複層林へ誘導することとしており、公益林内にある人工林については、間伐等の繰り返しにより侵入広葉樹を増やして針広混交林へ誘導するほか、高標高地や急傾斜地、林地生産力の低い林分、沢沿いの林分等については広葉樹林や針広混交林への誘導を行うこととしています。また、常時水流のある溪流沿いにおいては、水系への土砂流出の抑制、風致の維持、野生生物の生息・生育場所や移動経路の提供、種子や栄養分の供給、水域における日射の遮断等を目的とした溪畔林を設けることとしているほか、猛禽類の生息地においては、狩り場の確保が必要であるとのことから、小面積皆伐等により餌場の確保に努めることとしています。

森林は、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全、地球温暖化防止等の多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在です。無秩序な森林の伐採や開発は、森林の荒廃を招き、山崩れや風水害等に

よる災害を発生させる原因となります。また、無計画な伐採は森林資源を減少させ、安定的な林産物供給の面でも大きな支障をきたすおそれがあります。そのため、長期的な視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要であることから、国、県、市町村及び森林所有者の各レベルを通じた森林計画制度が体系付けられており、時代に合わせた「多様な森林づくり」を進めて参りますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。

〔庄内森林管理署〕

(参考)  
多様な森林づくりの一例



## 県内に植栽された特用樹林の現況

## ◆特用樹とは

特用樹とは、木材以外の用途で利用される樹木の総称であり、食用、繊維、生薬、染料、油脂・蠟・精油、工芸などに利用されます。山形県における代表的な特用樹としては、キリ、キハダ、ウルシが挙げられます。キリは箆筒や箱材などの工芸品として、キハダは内皮を生薬として、ウルシは漆器や寺社仏閣などへの塗料として利用されています。

## ◆県内の特用樹林分の現状

山形県では、昭和後期から平成初期にかけて特用樹の造林が盛んに行われました。この時期に植栽された特用樹は、収穫期をすでに過ぎていますが、植栽量に見合った生産は行われていません。また、植栽林分の定期的なモニタリングも行われていないため、これら林分が現在どのような状況になっているのか、よくわかっていません。そこで森林研究研修センターでは、キリ、キハダ、ウルシの三樹種について、植栽履歴のある林分を踏査し、現況評価を行いました。また、これらが不成績林分であった場合、その原因についても

考察しました。

## ◆現況調査の結果

山形県森林クラウドシステム及び地元関係者への聞き取りにより抽出した各樹種の植栽林分を現地踏査し、成育状況を評価しました。評価は、植栽面積あたりの標準的な収穫量に対して7割以上の収穫が期待される林分を「良」、7割未満の林分を「不良」、植栽木が残っていない林分を「不可」としました。

調査の結果、樹種によらず踏査した林分のほとんどは不良もしくは不可と判断されました。今回対象とした特用樹はいずれも陽樹であり、不良もしくは不可となった林分はいずれも下刈りや除伐、ツル切りの不徹底が要因でヤブ化していたことから、十分な陽光が得られず健全に育たなかった可能性が高いと考えられます。また、水はけの悪い立地や痩せ地など、明らかに不適地に植栽した事例も多く見られました。そのほか、樹種毎にみられた不成績林分の現況を紹介します。

キリについては、通直材を得るための樹形誘導をする必要があります

が、今回踏査した林分では多くの個体で枝下高が低く、幹が曲がっているなどの樹形誘導の失敗事例が確認されました（写真1）。さらに、樹病や虫害などの諸被害も確認され、適切な防除が行われていないことが推察されました。



写真1 キリの樹形誘導成功例(左)と失敗例(右)

キハダについては、内皮収量を増やすために直径成長を促す密度管理を徹底する必要がありますが、間伐不足により立木密度が高くなり、幹の細い個体が多い林分が確認されました（写真2）。



写真2 間伐不足のキハダ林分

ウルシについては、不適地である水田跡地などのような水はけが悪い過湿な立地や貧栄養な乾燥地に植栽されたことで発生したと考えられる梢端枯れ林分が多く確認されました（写真3）。



写真3 ウルシの梢端枯れとツル被害

これらの調査結果を踏まえ、本県の特用樹が不成績林分に至った主要因の考察と、既存の栽培マニュアルや論文などの情報を参考に、各樹種を育成するためのポイントを記載した事例集を作成しました。特用樹を新たに植栽したい方にとって、有益な資料になると考えています。事例集をご覧になりたい方は、当センターまでご連絡ください。

〔森林研究研修センター〕



フォレスト通信

# 未来のフォレスターたち



●農林大学から  
●専門職大学

## ◆附属農林大学校林業経営学科

4月に県内外からあわせて6名の第10期生が新たに入校しました。入校から2カ月が過ぎ、学生は、講義や実習を通し森林・林業について真剣に学んでおり、今回はその様子をご紹介します。

## ◇多岐にわたる学習科目

一学年で学ぶ科目は「造林・育林」、「森林生態」、「森林保護」、「樹木」、「森林計測」、「林業機械」、「林産



1学年、2学年揃いのジャケットで撮影！

など13科目と多岐にわたります。農林大で学生は、それぞれの希望する進路に即した森林管理や林業に必要な実践能力を身につけるため、前述



コンテナ苗によるスギ植栽実習を実施

した科目に関する知識と技術を440時間に及ぶ実習と有機的に関連させながら学んでいます。そして高い専門性を備えた地域の森林・林業を担うリーダーの育成と地域の森林経営をブラニングできる経営力を合わせ備えた人材育成が、林業経営学科の目

標になっています。

〔附属農林大学校〕

## ◆専門職大学 森林業経営学科

専門職大学は開学2年を迎え、1期生9名、2期生8名とにぎやかになりました。

新学期を迎えてホッとするのもつかの間、講義や実習が始まりました。とくに1期生の2年生は4月末から5月上旬にかけて、臨地実務実習がはじまりました。これは、山形県、東北をリードする事業体や企業で実習しながら、技術の習得だけではなく、経営戦略や経営理念を学ぶことを目的としています。2年次から4年次まで毎年30日間、合計90日間、原則同じ実習先に通います。たとえば、兄弟入りのような感じですが、こうした実習は、実践的な知識を学ぶことを重視する本学を特徴づけるプログラムです。学生たちを快く受け入れてくださった実習先の皆様には感謝の意を表したいと思っています。

さて、本学科は、「森林業」であって「林業」ではありません。森林は、再生可能な原料である木材の生産の場であると同時に、木材以外の多様な生態系サービスを提供してい

ます。言い換えれば、森の恵みを提供しています。森の恵みを可視化して、ビジネス化して豊かな森林と持続的な地域社会を実現するという思いが「森林業」には込められています。

森の恵みを実感してもらうために1年生と2年生で、演習林から収穫した山菜を昼休みに天ぷらにして味わいました。むずかしい授業のかたわら、楽しみながらみんなで料理して味わうことも良い体験になったと思います。

〔東北農林専門職大学〕



タラの芽の天ぷらを頬張る

# 広げよう！原木なめこ栽培　春の普及活動

## ◆はじめに

原木なめこ栽培における大仕事といえば、春の植菌です。村山総合支庁では、今年も植菌作業を通して栽培の輪を広げようと、体験イベントや研修会にて普及活動を行いました。

◆体験イベントへの協力

4月22日（火）に村山市の河島山のふもとで、地元の西郷小学校3・4年児童が原木なめこの植菌体験を行いました。「杉島里やまの会」による恒例行事で、当課普及担当は今回初めて参加し、紙芝居できのこの栽培方法について説明しました。説明を真剣に聞いてくれていた児童たちですが、いざ実践、となると我先にと種駒を打ち込み、「錆びた釘みたい」「食べるのが楽しい」と、思い思いの感想を話してくれました。

## ◆研修会の開催

5月1日（木）には寒河江市幸生で研修会を開催し、初心者からベテランまで、県内各地域の方18名に参加いただきました。7千駒ほどの植菌作業を行う合間、参加者同士の情報交換や講師への質問も盛んに行われ、「年間を通して手伝ってみたい」「出来上がりも見てみたい」という声が聞かれました。

## ◆おわりに

村山総合支庁では今後も原木なめこの普及活動を行っていきます。当課の研修会に参加したい方、イベント等へ職員の派遣をご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

〔村山総合支庁森林整備課〕



きのこについて学ぶ児童たち

駒を打ち込み、「錆びた釘みたい」「食べるのが楽しい」と、思い思いの感想を話してくれました。



寒河江市幸生での植菌実習の様子

# 大江町光林会 林業経営「創意工夫」 表彰を受賞

表彰を受賞

大江町光林会（會田幸子会長）が公益社団法人大日本山林会の令和6年度林業経営「創意工夫」表彰行事の優秀賞を受賞し、5月28日大日本山林会総会において表彰されました。

大日本山林会では、平成22年度から、林業経営の現場における技術的な発明や資材の有効活用のほか、女性の活躍その他経営の改善に役立つ創意工夫事案を顕彰する「林業経営『創意工夫』表彰行事」を実施しており、山形県からの優秀賞受賞は、令和2年度の株式会社カネカ（金山町）の受賞以来2回目となります。

受賞テーマは、大江町光林会が令和4年度から実施している「スマホを持って所有林を探しに行こうー研修会の開催等による所有山林の相続登記・森林整備の推進ー」で、身近なスマホのアプリを使い所有者不明森林や森林相続登記の問題を解決しようとする活動が高く評価されました。

〔山形県森林協会〕

## 土砂災害を防止・軽減する「治山施設」が必要です 森林を整備・利活用する「林道施設」が必要です

会長	新庄支部長	永井 敏行	永井建設(株)	理事	北村山支部長	大山 圭介	大山建設(株)
副会長	置賜支部長	那須 正	那須建設(株)	理事	庄内支部長	伊藤 大作	(株)伊藤組
副会長	西村山支部長	佐藤 欣治	大東建設(株)	監事	東南村山支部	堀川 裕志	羽陽建設(株)
理事	東南村山支部長	志田 賢一	志田建設(株)	監事	西村山支部	大泉 雅裕	(株)大泉組

山形県森林土木建設業協会 ◇事務所: 山形市あさひ町16-21

TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454 E-mail: info@y-sinrin.jp

## 緑の募金街頭キャンペーンを行いました

### ◆はじめに

緑の募金は、地域の環境緑化活動や緑の普及啓発活動、森林環境教育など幅広い緑化活動を推進するため、全国規模で展開している活動です。

今年度は「緑の募金で進めよう！SDGs」をスローガンに、新庄市で「緑の募金街頭キャンペーン」を開催しましたので、その概要を紹介します。

### ◆開催内容

令和7年4月23日にヤマザワ新庄店を会場に、街頭キャンペーンを実施しました。今回は、昨年に引き続き、緑の募金マスコットキャラクターの「どんぐりちゃん」が参加したほか、地元のパリス保育園の園児たちも活動に参加し、募金の協力を呼びかけてくれました。

パリス保育園は、やまがた緑環境税活用事業である「みどり豊かな森林環境づくり推進事業」により、園児が森や自然とのふれあいや、木のぬくもり等を実感する活動に積極的に取り組んでいます。

当日は、パリス保育園の園児8名が街頭で「緑の募金をお願いします」

とかわいらしい声で協力を呼びかけると、訪れた人々から温かい支援が寄せられ、募金に協力していただきました。

### ◆おわりに

今回は保育園からの協力もいただきながら街頭キャンペーンを実施したところ、多くの方から募金いただき、昨年度より募金額も増加するなど、大きな効果が見られました。

今後も、街頭キャンペーンの実施等を通して、一般の方々に緑の募金や緑化の推進等について理解をいただけるよう、取組みを実施してまいります。〔最上総合支庁森林整備課〕



街頭キャンペーン実施状況

## 最上地域の山火事防止の取組について

### ◆はじめに

昨年は県内各地で林野火災が相次ぎ、170ヘクタールもの森林が消失する大規模な被害も発生しました。

また、今年に入り、全国各地で大規模林野火災が頻発しており、住民生活にも深刻な影響を与えています。

そのため、最上総合支庁では、農繁期における野焼きや山菜採りの入山が増える大型連休前に、関係機関と連携し、山火事防止の啓発活動を実施しました。

### ◆実施内容

令和7年4月16日（水）に、最上総合支庁一階ロビーにおいて「山火事防止キャラバン出発式」、ヤマザワ新庄店において「山火事防止啓発チラシ配布」を実施しました。

出発式は、地域の山火事防止への意識を高めることを目的として行われ、消防本部、山形森林管理署最上支署、管内市町村及び森林組合、（公財）やまがた森林と緑の推進機構が参加し、それぞれ所管する地域を広報車で巡回しながら、地域住民へ山火事防止を呼びかけました。

出発式終了後には、ヤマザワ新庄

店で来店者に対し、山火事防止の注意事項が記載されたチラシと、広報物品（冷却シート）を配布しました。全国ニュース等で大規模林野火災が報道されていたこともあり、皆様の山火事に関する関心が高かったように思われます。

### ◆おわりに

山火事は一人一人の心がけにより未然に防ぐことができます。今後とも地域全体で山火事のリスクを軽減し、大切な森林資源を守る努力が続けられることを期待しています。

〔最上総合支庁森林整備課〕



ヤマザワ新庄店でチラシ配布

# 大規模林野火災から1年（南陽市・高畠町）

## 【はじめに】

置賜地域において、昨年の春に大規模な林野火災が発生し、多くの森林が焼損しました。

林野火災から1年経ったことから、これまでの経過などを含めて置賜総合支庁森林整備課の取り組みを中心に報告します。

## 【林野火災の概要】

南陽市では、令和6年5月4日に宮内地内の秋葉山において林野火災が発生し、102haに及ぶ森林が焼損し、近年における県内最大の林野火災となりました。



南陽市の山火事  
(令和6年5月4日夜撮影・南陽市役所提供)

高畠町では安久津地内で計8回の林野火災が発生し、そのうち令和6年4月28日と5月5日に発生した林野火災は、10ha以上の焼損面積があり、計50・7haが焼損しました。

両市町ともアカマツやナラの2次林を主体とした森林が焼損し、南陽市では山荘が焼けるなど森林以外の被害もありました。

## 【南陽市での取り組み】

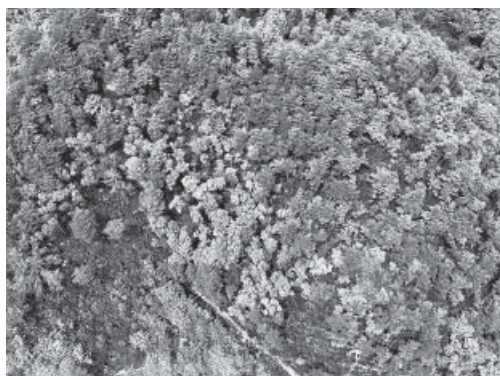
南陽市の秋葉山は普通林（森林法第5条）であることから、南陽市が中心となり復旧に向けて取り組んでいます。

総合支庁では、火災後の現地調査をはじめ、ドローンによる森林被害の調査、植生回復状況の調査を実施し、南陽市のサポートを行っています。特に、ドローンによる詳細な調査は、被害が広範囲に及び実態把握が困難であることから、被害区域や植生状況の把握に役立っています。

## 【高畠町での取り組み】

一方、高畠町安久津地内の現場は保安林であることから、県が主体となり、火災発生後から現地踏査やドローンによる森林被害の調査及び土

砂流出の危険性調査等を行いました。また、治山事業による森林復旧を念頭に、県が調査業務を発注するとともに、町と共同で、定期的な経過観測を実施しています。



ドローンで撮影した火災後の状況  
(高畠町)

## 【火災後の秋葉山の状況】

火災後の地表面は黒く焼け焦げていましたが、令和6年7月になると草本性の実生が確認され、特に、ナラの根萌芽が大量に発生していました。令和7年5月に植生調査を行ったところ、昨年に比べ稚樹の数及び種類が増えるとともに、昨年のナラの萌芽が成長しており、改めて植物の回復力に驚かされました。

## 【今後の取り組み】

今春もドローンなどを活用しながら現地調査を行い、森林の状況の把

握に努めております。

南陽市・高畠町では、関係者を集めた連絡会議を開催し、調査結果に基づき森林整備の基本方針を策定する予定となっています。

## 【おわりに】

置賜地域では、林野火災の発生件数が増えており、その規模も大きくなっています。

林野火災は、気象及び地形条件によつては消火活動が困難となることから、発生させないことを第一に山火事予防対策の普及啓発に努めてまいります。

現在実施している森林被害の調査や植生回復の経過観測が、今後の林野火災の復旧に寄与することを期待しています。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



火災後に発生したナラの根萌芽  
(南陽市)

# みんなあつまれ！ 眺海の森！

～新たな連携イベントと施設整備～

## ◆はじめに

眺海の森は、平成元年にフルオープンした県内2番目の県民の森です。庄内平野と最上川、日本海を一望でき、鳥海山及び出羽丘陵の山々から月山に至る360度を眺望できる絶景のロケーションが自慢です！

四季折々の自然に親しむことができる体験学習の場として各種森林環境教育活動を行っており、年間6回の森林教室、小中学校へのクラフト出張教室等を通して、森林散策や木工クラフトの楽しさを伝えていきます。

## 今後の森林教室予定

8/3	虫探し 虫かご・オニヤンマづくり
10/5	フォトフレームづくり 木の実探し
11/2	紅葉狩り散策 きのこ植菌体験
12/7	リースと蜜ろうづくり

庄内平野と最上川の景観



## ◆森の案内人講座

この体験学習を支えているのが「森の案内人」です。県では利用者の案内や体験活動を支援する森の案内人を養成する講座を毎年行っており、令和6年度は新たに4名の方に森の案内人として登録いただきました。講座では森林案内や木工クラフト、樹木講座や応急処置講座を行うとともに、眺海の森を彩る樹名板を製作し、設置まで行いました。今年度は7月と8月に講座を実施予定です。

## ◆木育拠点施設としての整備

令和4年度から木育拠点としての整備も進められています。令和6年度は森林学習展示館ホールに木育遊具や絵本などを整備し、雨の日も子どもたちが楽しく遊べる空間を創出しました。今後は木工機材を整備し材料を揃える等、木育拠点としての役割を強化していく予定です。



## ◆新たな連携イベントの開催

今年度は新たな取組みとして、様々な連携イベントの開催を予定しています。月山ビクターセンター共催「蜜ろうづくり&散策」、酒田光陵高校共催「7・25を忘れない」(竹あかりとオカリナ演奏)、工房あらぎ共催「陶芸教室」など、盛りだくさんです。

## ◆おわりに

今年度は新たな事業が目白押し of 眺海の森に、皆様ぜひ足をお運びください！イベントの詳細については眺海の森ホームページ、インスタグラムをご覧ください。

## 参加者募集中！



森の案内人講座

眺海の森



Instagram



HP



## 「緑のプレゼント」開催

庄内地域では緑化運動の一環として、毎年みどりの日の前後に「緑のプレゼント」を開催しています。

4月29日、眺海の森オープニングイベントとして開催された緑のプレゼントではキンモクセイの苗木100本を配布。5月10日、鶴岡市のエスモールでの緑のプレゼントでは、ブルーベリーの苗木60本を配布。どちらもあいにくの雨模様の天気にも関わらず、開始前から多くの方にお集まりいただきました。また、緑の募金にもたくさんの方から御協力をいただきました。

今回配布した苗木を御家庭で大切に育ていただき、日頃の管理を通して、緑化意識の高揚に繋がっていただければと思います。

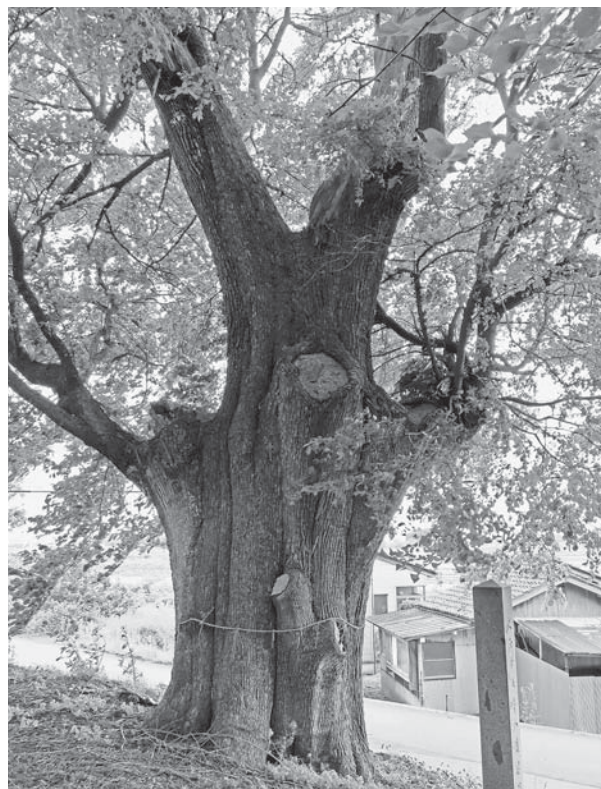


〔庄内総合支庁森林整備課〕

は北日本に生育するニレ科ニレ属の落葉高木ですが、同じニレ科のケヤキとは異なり、県内には巨樹は多くありません。福地神社のハルニレはインターネットの情報で目通り幹周5.7m、県内1のハルニレと思われるが、天然記念物には指定されていません。あちこち太い枝が切られた跡も見られますが、枝葉の茂りもよく旺盛な樹勢で、若葉の美しい名木です。

ハルニレは、昔「タモ」と呼ばれ、人の生活と深くかわりのある木でした。材として使われるほか、その内皮から繊維をとり、縄や糸として利用され、アイヌの伝統的な織物であるアツシ織に使われました。

〔山形県森林協会〕



今回は鶴岡市羽黒町福地神社のハルニレの巨木を紹介いたします。福地神社は鶴岡市街から県道47号（通称羽黒街道）を東に進み赤川から2kmの距離にある神社で、道路わきにハルニレの巨木が立っています。ハルニレ

山形県の古木・名木 144

福地神社の  
ハルニレ  
鶴岡市羽黒町狩谷野目



（案内略図）



## “美しい森林の風景を守るために” 森林経営管理をサポートします

- 市町村の森林・林業行政の体制支援
- 資源量調査
- 森林 GIS 等、システム整備
- 森林経営計画作成促進の支援
- 路網整備の助言・指導
- 関係団体とのマッチング
- 森林境界の明確化
- 森林情報の収集及び整備
- 森林サイクルのマネジメント



一般社団法人

山形森林調査協会

〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153番地の1  
TEL.0237-85-8233 FAX.0237-85-8233  
E-mail:yfi@kfa.biglobe.ne.jp

## パスコは、森林・林業の課題を先端ICT技術で解決します！

### 航空レーザ計測

地形・樹高・樹冠を3次元計測し  
計画立案、森林管理を支援

### 森林クラウドシステム

簡単便利なサービス  
効率的な情報共有を支援

### 森林資源解析（AI解析）

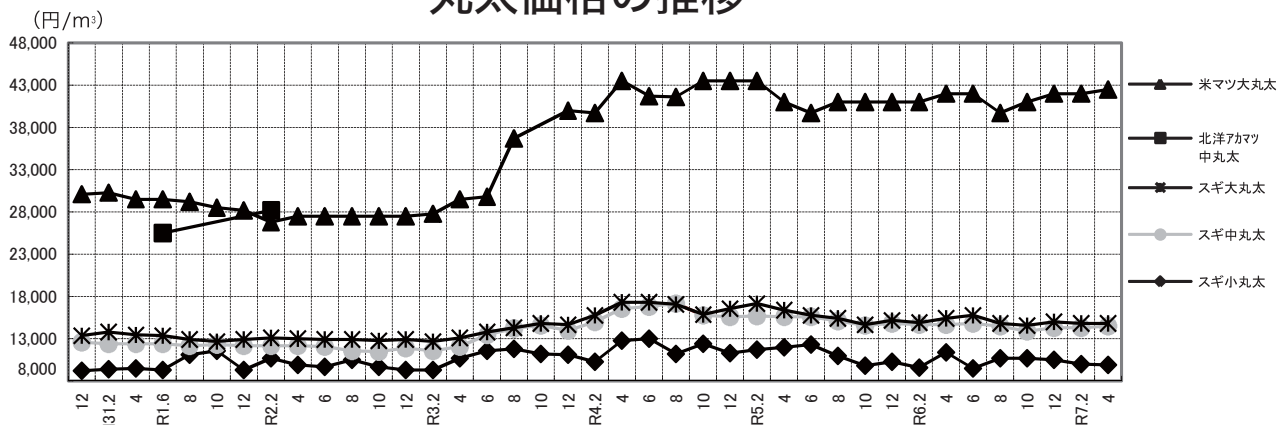
樹種判別・森林資源量における  
現地確認を省力化



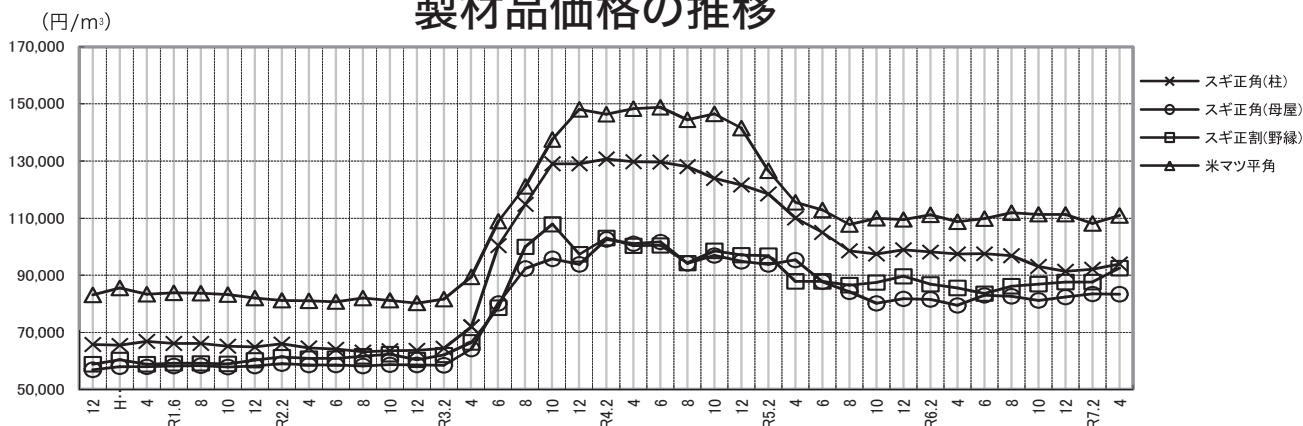
株式会社パスコ 山形支店

〒990-0039 山形県山形市香澄町一丁目19番5号  
Tel : 023-624-7271 www.pasco.co.jp

## 丸太価格の推移



## 製材品価格の推移



山形市南部児童遊戯施設

シェルター インクルーシブプレイス

すべての子どもたちに開かれた遊び場

**Shelter**®

本社 / 山形市松栄1-5-13 tel. 023-647-5000  
東京支社 / 港区芝5-36-7 9F tel. 03-5418-8800  
[www.shelter.inc](http://www.shelter.inc)

設計・監理：大西麻貴＋百田有希 / o+h  
施工：高木・シェルター特定 JV  
PFI 事業者：夢の公園（代表企業：シェルター）

住んでよし心ゆたかな木の住まい

**株式会社 山形城南木材市場**

- 木材製品市場
- 木材プレカット事業（構造・羽柄・合板加工）
- 中大規模木構造建築・木工事・木質内装工事
- 原木市場（杉、広葉樹等）
- J A S 認証工場（機械等級）・木材乾燥・木材加工

〒990-2307 山形市表蔵王60番地の1

TEL. 023-688-2200 FAX. 023-688-2012 Email: [jonan@mmy.ne.jp](mailto:jonan@mmy.ne.jp)